

自然観察会報告 初秋の歌姫街道

富江 文雄

9月12日(月)近鉄京都線平城駅に9時集合。14人の会員と田代先生を入れた15人で時間通り自然観察会に出発した。成務天皇陵の横から観察を開始、ウラジロが繁茂しているのを見る。ウラジロの葉は巨大な複葉で完成するのに5~6年掛かる。シダの場合見えているのは‘葉’の部分で茎はごく小さくすぐに根になる。



(ウラジロの群生)

ウラジロと少し離れてコシダの群生も見られた。この御陵の堀に水草の一種‘ガガブタ’が白い花を咲かせている。この花はメシベが長いタイプ(長花柱)と短いタイプ(短花柱)があり、株によって違うので自家受粉を防いでいると考えられる。名前の割には可憐な花だ。ここで注意点として、草花の名前は一般的にカタカナを使って表現する。漢字を使うと混乱する事が多い為である。

次に日葉酢媛命陵を通り、瓢箪山古墳から塩塚古墳をめざす。葉柄の長さが違うクサギを見た後、ツユクサの花が‘心’の字に似ているのを観察。メシベが中央にあり色の違う3種類のオシベあり、黄色いオシベには稔性がないと考えられている。栗の葉とクヌギの葉が似ている、その違いを解説してもらう。

ヘクソカズラは葉をちぎってもむと、きつい臭いを発する。花はその形から‘やいと花’とか‘サオトメ花’と呼ばれる。花冠の中に5個のオシベと先が二本に分かれたメシベが入って

いる。

歌姫集落の中にある神社でトイレ休憩。天気予報で35℃以上になると言っていた通り急激に暑くなった。神社の境内にオシロイバナが群生していた。

熟した実は黒いガクの変化したものに包まれているので偽果と考えられ、中を開



けると白い胚乳がおしろいのような粉状になるので、オシロイバナと呼ばれるようになったらしい。外来種である。

集落の出口でクリスマスローズの袋果を見る。次にサルスベリの花を観察。花びらが6枚でオシベに長短2本あり、共に稔性があり、なぜかは今のところ不明。カラスウリの花は夜に開く。磐之媛命陵近くに屋根のついたお地蔵さんがあり、その腹掛けをめくると白いものがたくさん見える。これらはヤモリの卵殻で、不思議なことに一年中いつでも見られる。



(参加者の集合)

ウナベ古墳を通る道が通行止めの為、水上池の北側で終了した。

次回は10月17日(月)馬見丘陵公園での観察会になります。引き続き田代先生に講師をお願いしております。